

高校サッカーとクラブユースにおけるサッカーの観戦動機の違い

The difference between high school football player and club youth player of motive on watching a football match

1K07B159-5 野田 明弘

指導教員 主査 木村和彦 先生 副査 堀野博幸 先生

【目的】

高校3年間クラブユースでサッカーを続ける中で、あることを疑問に思った。それは、毎年冬にテレビで放送される全国高校サッカー選手権と、クラブユースの大会の違いである。高校選手権は、アマチュアの大会にも関わらず、1回戦からテレビ放送が行われ、決勝戦には5万人を超す観客が国立競技場に足を運び、多くのメディアが注目する大きな大会だ。一方で、クラブユースの大会は、決勝戦すら地上波でのテレビ放送はなく、観客数も決勝戦で2〜3千人程度である。

高校とクラブユースが交わる唯一の大会「高円宮杯」では、最近の5年間のデータ(日本サッカー協会出典:表1-1)を見ると、決勝戦に進出した10チーム中8チームがクラブユースであることから、クラブユースの方が高校のチームより技術レベルが劣らない。しかし、クラブユースに比べて近年、成績が劣る高校サッカーが、より高い人気を得るといふ、逆転現象が起こっている。そこに、「日本人がスポーツに期待すること」が、反映されているのではないかと、単に技術の高低ではなく、別の観戦動機があるのではないかと考えるのである。

そこで本研究は、クラブユースと高校サッカー双方のサポーターの観戦動機を調査し、その違いを明らかにすることで、今後のサッカーおよびサッカークラブビジネスの発展への策を考えるものである。

【方法】

調査対象は、2010年9月12日(日)、全日本ユース(u-18)サッカー選手権大会の清水エスパルスユース対滝川第二高等学校、浦和レッズユース対流通経済大学柏高等学校の観戦者を対象とした。質問紙によるアンケート調査を行った。調査員が試合開始前、ハーフタイム、試合終了後に質問紙を直接配布し、調査対象者にその場で記入してもらい、直接回収した。回収数は229部で有効回収数は223部であった。

【結果・考察】

家族交流因子において有意な差がみられた。家族交流では高校サッカー観戦者の方が高い平均値を示しており、家族の応援、家族で同じ時間を共有する機会とされていることが考えられる。他の3因子は有意な差はみられ

なかったが、それぞれ因子の質問項目をみると、高校スポーツ特性因子の「どちらが勝つかわからないスリルがあるから」と「ユース(u-18)、高校サッカーには涙があるから」の2項目において有意な差がみられた。この2項目においても高校サッカー観戦者の平均値が高く、選手がひたむきにプレーする姿、最後まであきらめずに全力でプレーすることで起こるドラマに期待していることが分かる。

【考察】

本研究は、クラブユースと高校サッカー双方のサポーターの観戦動機を調査し、その違いを明らかにすることで、今後のサッカーおよびサッカークラブビジネスの発展への方策を考えるものである。

クラブユースと高校サッカーの観戦動機の違いは、高校サッカー観戦者の方がクラブユース観戦者より家族交流因子と高校スポーツ特性因子の「どちらが勝つかわからないスリルがあるから」と「ユース(u-18)、高校サッカーには涙があるから」の2つの質問項目において平均値が有意に高い結果となったため、高校サッカー観戦者の方がクラブユース観戦者より期待する要素が大きく、Jユースカップより全国高校サッカー選手権の観客動員数が多い理由になる。

家族交流が出来る場であること、どちらが勝つかわからないスリルがある試合をすること、そして涙があることは、今後の高校世代におスポーツビジネスの発展のヒントとなるだろう。その策としては、家族来場の特典、家族割引、スタジアムの安全対策の強化に加え、家族参加のみ試合後選手とスタジアムで触れ合い、キャンプが出来るなど家族の思い出の場となる機会を提供することが必要となる。

得点したチームから選手が1人退場し、数的不利な状態で逆転が起こりやすく、スリリングなゲーム展開にするなどの規定の見直し、選手のプロとしての意識を高めることでどちらが勝つかわからないスリルがある試合をすることの策と考えられる。

涙に関しては、観客にプロサッカー選手に至るまでの経緯、試合に挑むにあたっての経緯、家族、スタッフの秘話などサッカーに携わる人々の込み上げる思いを電光掲示板、パンフレット、メディアを通して露出する。